



# 第4期事業報告書

(2015年10月1日～2016年9月30日)

---

一般社団法人りぶらす

2013年1月に法人登記し、5月より事業開始。11月から障害福祉サービスを始める。2014年9月より、コミュニティーヘルス事業を始める。2015年3月より、登米市にてデイサービスを開設。2016年4月より、介護を担う家族と働く人と組織（会社）を支えるための「仕事と介護の両立支援事業」を開始。

**2013年**

**2014年**

**2015年**

**2016年**

5月：石巻デイサービス（介護）

11月：石巻障害福祉サービス

9月～コミュニティーヘルス事業  
(旧地域健康サポート事業)

3月：登米デイサービス

4月：仕事と介護の両立  
支援事業

8月：登米障害  
福祉サービス

# ハイライト～活動の場面～



＜介護・障害福祉事業＞  
床から起き上がる練習

＜介護・障害福祉事業＞  
お金の計算の練習

＜介護・障害福祉事業＞  
高齢者と障害児の体操

＜介護・障害福祉事業＞  
子供との交流



＜コミュニティヘルス事業＞  
おたからサポート要請講座

＜コミュニティヘルス事業＞  
センターによる体操での  
世代間交流

＜仕事と介護の両立支援事業＞  
企業での研修

＜仕事と介護の両立支援事業＞  
母親への両立支援講座

## ＜理念＞

子供から高齢者まで病気や障害の有無にかかわらず地域で健康的に暮らせる社会を創造する

## ＜VISION＞私たちの目指す社会

健康的な「ありたい暮らし」をカタチにできる社会を目指す

## ＜Mission＞私たちの使命

私たちに関わる人々及び私たち自身が、健康的な「ありたい暮らし」をカタチにするために最適な取組をする

## パートナー

ケアラー

元ケアラー

専門家

行政

企業プロボノ

中間支援

健康サポーター

## りぶらす

### 新規事業

#### 仕事と介護の両立支援事業

### 既存事業

#### 介護・障害福祉事業

#### コミュニティヘルス事業

## 地域社会

### 企業

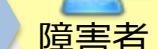


## ケアラーズ・コミュニティ

### 要介護者



高齢者



障害者

### 市民



### ケアラー(介護当事者)





リポラス  
*Link & Rehabilitation Plus*

## 活動詳細

---

介護・障害福祉  
事業

コミュニティへ  
ルス事業

仕事と介護の  
両立支援事業

その他

## ①デイサービス

### <目的>

- ・利用者の尊厳の保持
- ・有する能力に応じた自立した日常生活の支援

### <利用者>

- ・介護保険認定者（要支援、要介護者）



## ②基準該当生活介護サービス

### <目的>

- ・利用者が自立した日常生活または社会生活を営むことの支援

### <利用者>

- ・障害者（身体・精神・知的障害、難病）

## ③日中一時支援サービス

### <目的>

- ・障害者等の日中における活動を確保し、障害者等の家族の就労支援及び障害者等を日常的に介護している家族の一時的な休息

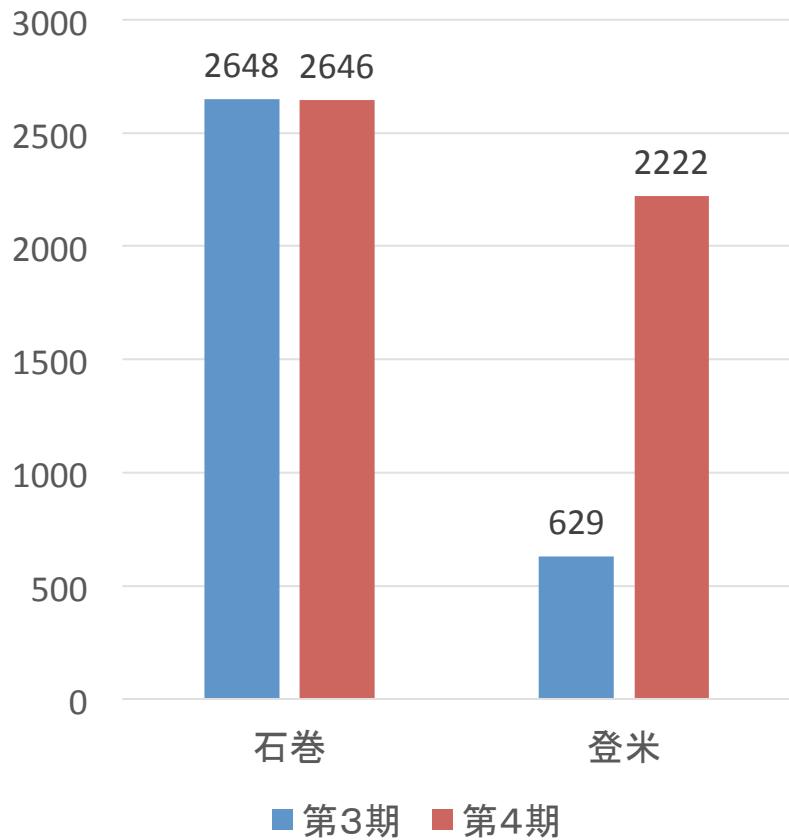
### <利用者>

- ・障害児

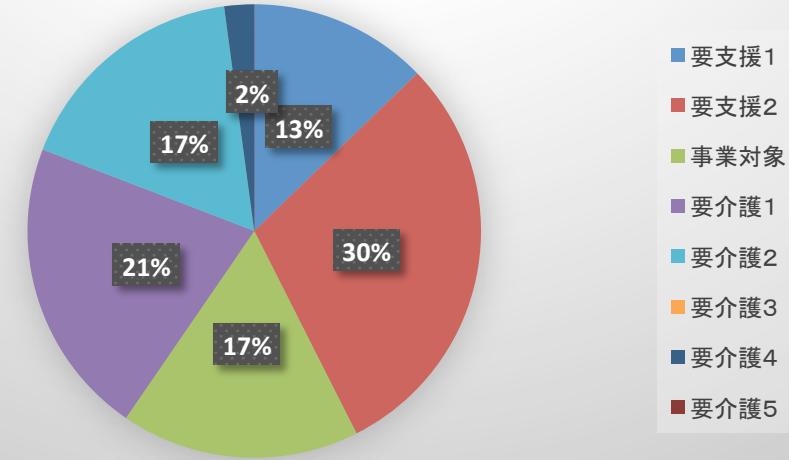


利用者数は、第3期と比較し第4期は石巻ではほぼ同じであり、登米の利用者は約3.5倍と増加。  
 第4期の介護区分は、石巻に比べて登米の方が重度者が多く、要介護2以上が43%となっている。  
 ※要介護2の状態像：食事や排泄に介助が必要なことがあり、身の回りの世話全般に介助が必要。立ち上がりや歩行に支えが必要。

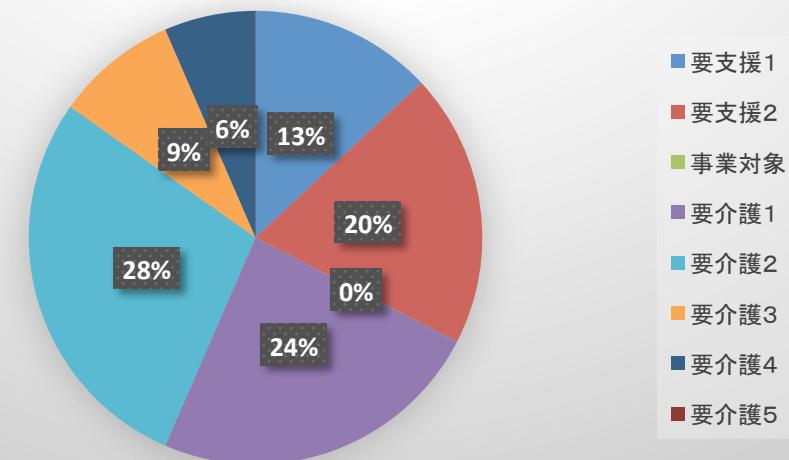
## 介護保険サービスの推移



## 石巒

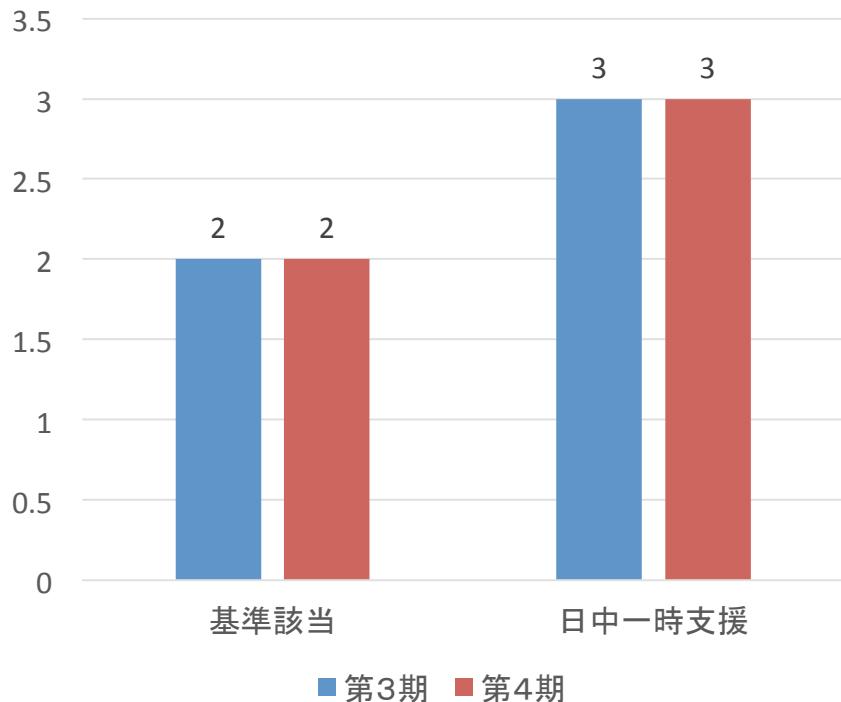


## 登米

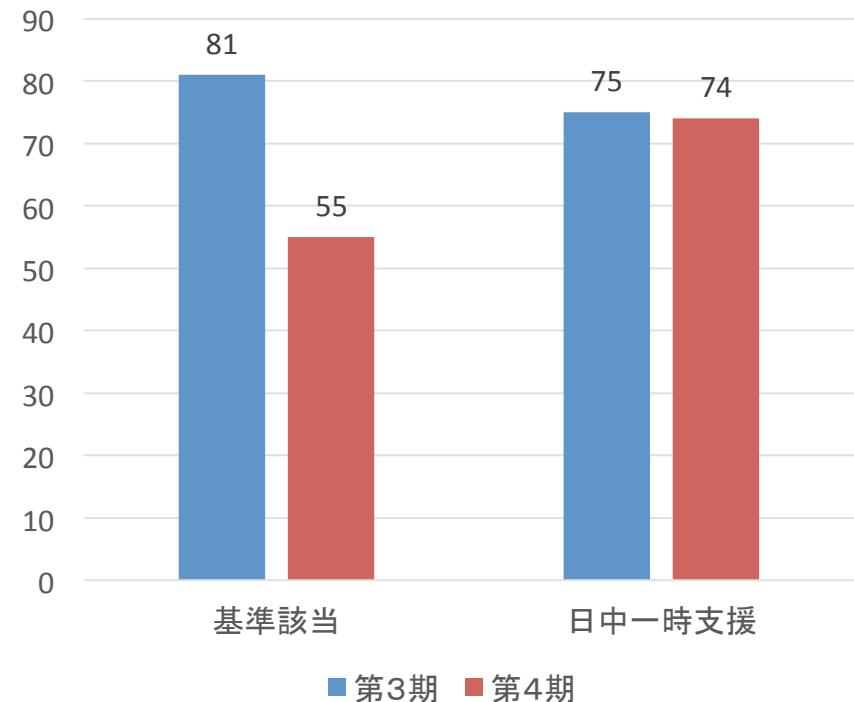


第4期の基準該当生活介護サービス、日中一時支援サービスの利用者の年齢は、合計5名で、年齢は10代～60代、性別は男性3名、女性2名となっている。利用者の障害については知的・精神・身体障害の方が利用している。

## 実利用者数

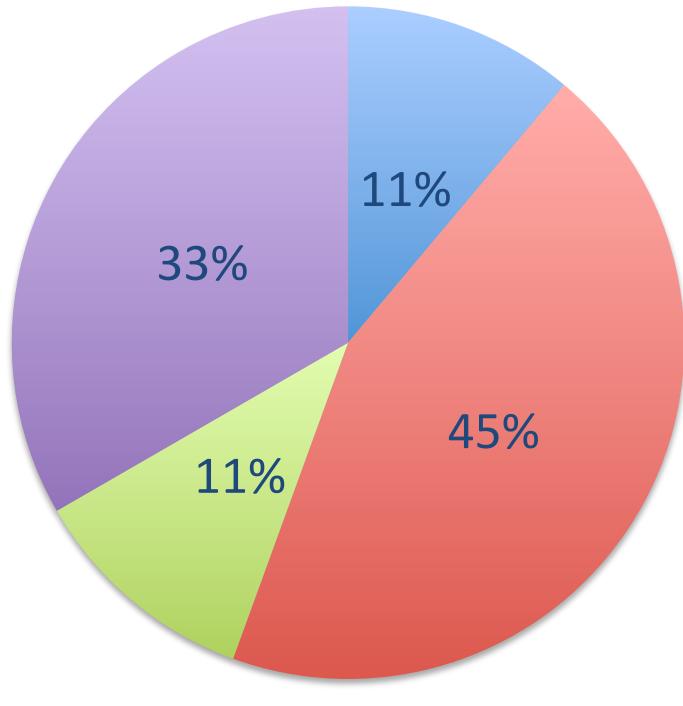


## 述べ利用者数



1年間の石巻、登米の全利用者134名中、6.7%の9名がデイサービスを卒業した。  
それにより、3,351,360円/年の経済効果となった。

卒業者との内訳



卒業の場面



■要支援1 ■要支援2 ■要介護1 ■要介護2

卒業による経済効果 ¥3,351,360 円/年

※9名が1年間同サービスを使い続けたと仮定した場合

疾患名：多発性骨髓腫の術後（頸椎に腫瘍あり）

性別：男性

年齢：73歳

介護度：要介護2→終了後に要支援2

利用期間：H27.7～H28.6

利用回数：1回/週

利用目的：**植木の剪定をするために**ふらふらするのを良くしたい。

⇒4か月間寝たきりによる筋力低下で歩行時にふらつきがある

⇒全身の筋力強化とバランス練習（応用歩行練習や不整地を歩いてもらう）

自主トレーニングを提案+実際に自宅の庭での動作確認

H28.6月からは利用回数を隔週に変更し、卒業



**卒業時には、自宅の植木の剪定が出来るようになり趣味の盆栽を出展できるようになった。さらに、あきらめていた「田植え」も周りの方から「手伝うから一緒にやってみよう」と声を掛けられ、実際に田植えを行った。**



リポラス  
*Link & Rehabilitation Plus*

## 活動詳細

---

介護・障害福祉  
事業

コミュニティーへ  
ルス事業

仕事と介護の  
両立支援事業

その他

## ①おたがいカラダづくりサポーター育成講座

### <目的>

- ・健康づくりを担う主体的な住民を育て、自助力、互助力の強い地域を作る

### <対象>

- ・30代～70代の健康意識の高い方



## ②おたがいカラダづくりサポーターによる体操教室

### <目的>

- ・体操によるサポーターの役割と出番を作り、参加される方の健康とコミュニティづくりに寄与する

### <対象>

- ・高齢者（仮設、復興住宅、地域の高齢者）



## ③地域交流促進活動

### <目的>

- ・共生社会の実現のための、インクルーシブな機会を作る。
- ・地域在住高齢者の居場所

### <利用者>

- ・地域に住む多様な人々
- ・高齢者



# 活動の経過

## 活動の経過

H26年9月	第1回おたからサポーター養成講座開始
H26年11月	第2回おたからサポーター養成講座開始
H26年3月	第3回おたからサポーター養成講座開始
H27年4月	おたからサポーターによる、仮設住宅4箇所での体操教室の開始
H27年7月	第4回おたからサポーター3級養成講座（りぶらす） 講座内容の見直し、修正
H27年8月～10月	サポーターリーダー5名決定（総括リーダー2名、エリアリーダー3名） サポーターリーダーによるリーダー会議を開始（毎月）
H27年10月	第5回サポーター3級講座桃生地区にて実施（初めて多圏域で実施） サポーターリーダーのみでの体操の実施を本格的に開始
H27年11月	第6回おたからサポーター3級講座実施
H27年12月	サポーター2級養成講座開催（誤嚥予防：雄勝歯科診療所河瀬Dr.）
H28年1月	第7回おたからサポーター3級講座実施（花王・石巻専修大学・りぶらすの共同研究開始）
H28年3月	第8回おたからサポーター3級講座実施（花王・石巻専修大学・りぶらすの共同研究開始）
H28年5月	おたからサポーターによる自主団体「おたからの“わ”結」設立
H28年6月	おたからサポーターによる自主団体「おたからの“わ”結」設立
H28年6月	サポーターの活動継続要因の調査（東北福祉大高橋理学療法士との共同研究開始）
H28年7月	

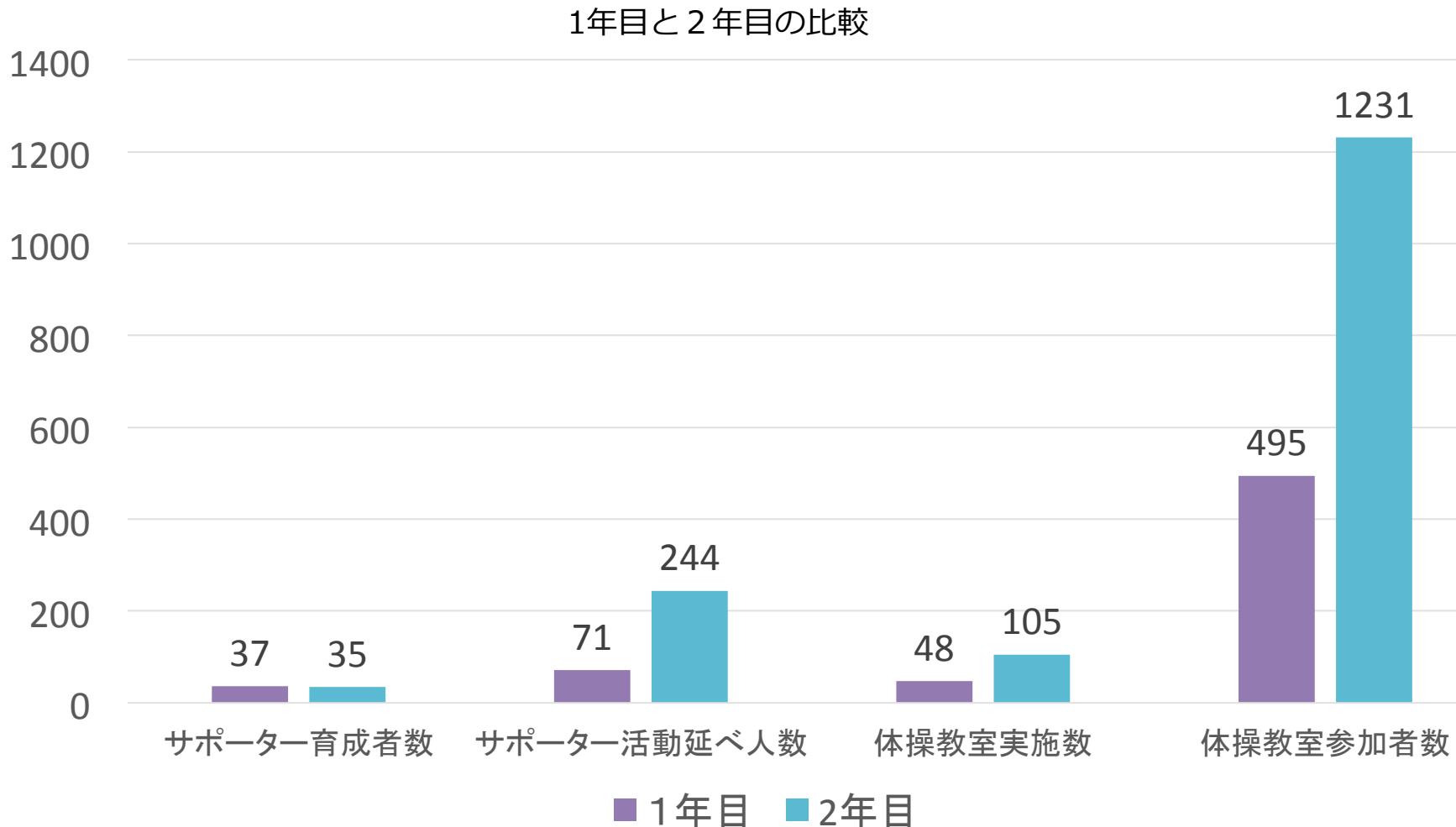


サポーターの自主団体の設立



花王・石巻専修大学・りぶらすの共同研究の様子

活動の1年目と2年目を比較すると、サポーターの育成者はほぼ同じ水準だが、活動延べ人数は約3.4倍に、体操教室実施数は約2.2倍に、体操教室参加者数は2.5倍に増加している。育成した後の活動につながる人が増え、その結果体操教室の参加者数が増えている。



## 講座受講者の声

- 私たちがどれくらい地域に伝えられるかは難しいですけど、身近な人から始めたいと思います。
- 家庭で生活する上でも、相手のことを思いやる、気を使うことに役立ちそうな気がします。習った体操もできるだけ実践していきたいと思います。
- これからも、自分で無理をしないように体を動かしながら周りの人にも教えていけたらと思います。
- 地域に広めたいと思った。
- 震災後本調子ではなく、ちょっと辛かったので参加してみました。体を動かしたりみんなで楽しく話をしたりが大事と思いました。これからは町内の活動の時に少しでも役に立てばいいです。自分や家族、兄姉の役に立ちたい。

## サポーター活動者の声

- 他社の前に出ることに不安があったが、現場に出てみて新しい自分を出せることがわかった
- 交流の場で何か特技として披露できれば良いくらいの想いで参加したが、欲が出て地域を支え健康寿命を延ばし貢献できるのではと思うようになった
- 現場での不安はある。話し下手。仕事をしているが、生きがいのためにボランティアを始めた。仕事以外の人と会えて本当に良かった
- 健康長寿でいるために生きているうちは元氣でいたい。自分の地域で何かできればと思っていたが、三反走仮設に行き元気をもらった。
- 足りない分は他の人から吸収し、多い分は他の人に分ける。助け合っていくことが大事。

## おたからのわ“結” 会長 岸浪長記さんの声

- 「石巻市を元気な町にするため、一致団結して一步を踏み出す。地域との信頼関係を構築し、楽しく健康寿命を延ばす活動を頑張っていこう」。(2016年6月9日おたからのわ“結”的立総会にて)

# おたからサポーターの活動における「目標」と「目指す効果」



		2016	2017	2018
石巻市	1)育成者	90名	150名	210名
	2)体操箇所	a)月:15か所 b)年:180箇所	a)月:20か所 b)年:240箇所	a)月30か所 b)年360箇所
	3)参加者数	a)月180名 b)年2,160名	a)月:240名 b)年:2,880名	a)月:360名 b)年4,320名
	4)予防医療効果 <sup>(*1)</sup> <sup>(*2)</sup>	¥3,469,500	¥5,011,500	¥7,324,500
	5)予防介護効果	¥18,900,000	¥27,300,000	¥39,900,000

4)H20年宮城県の1人あたりの医療費257,000円

5)石巻市の要介護者1人あたりの介護費1,400,000円

\*1,\*2 (1)+(3-a)の5%として)算出

### ③地域交流促進活動

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
あいあいプラス 利用人数	15	16	15	13	13	15	0	14	12	11	10	12	146



#### 利用者の声

- 数十年ぶりに会った友達がいて、嬉しかった
- (あいあいプラスに)こうやって集まってお茶っこすることが毎月の楽しみ
- この辺(五味地区周辺)には集まる場がなかったから歩いて集まれるようになって良かった。
- など



リポラス  
*Link & Rehabilitation Plus*

## 活動詳細

---

介護・障害福祉  
事業

コミュニティへ  
ルス事業

仕事と介護の  
両立支援事業

その他

## ①個人向けサービス

### <目的>

介護による負の連鎖を断ち切るために、暮らしの身边に家族を支える機会を作る

### <利用者>

これから介護を担う家族、すでに介護している家族



## ②法人向けサービス

### <目的>

介護による負の連鎖を断ち切るために、介護しながら働き続けられる環境を作る

### <対象>

企業、団体、組合など



- 新規サービス開発

介護離職リスク診断システムの開発

- 企業研修

3社 約100名（保険会社、建設業など）

- 団体研修

5回 約80名

(人事プロフェッショナル研究会、管理職向け研修など)

- 啓発活動

暮らしと介護の相談会の実施

子育て支援団体との連携によるダブルケアの啓発





リボラス  
*Link & Rehabilitation Plus*

## 活動詳細

---

介護・障害福祉  
事業

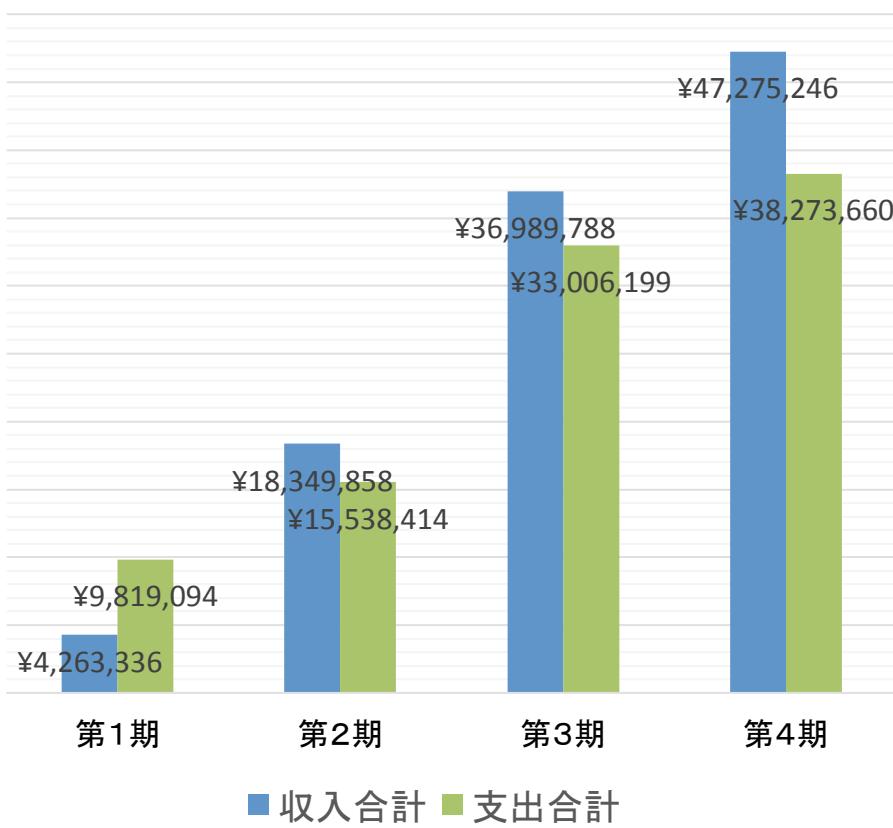
コミュニティヘ  
ルス事業

仕事と介護の  
両立支援事業

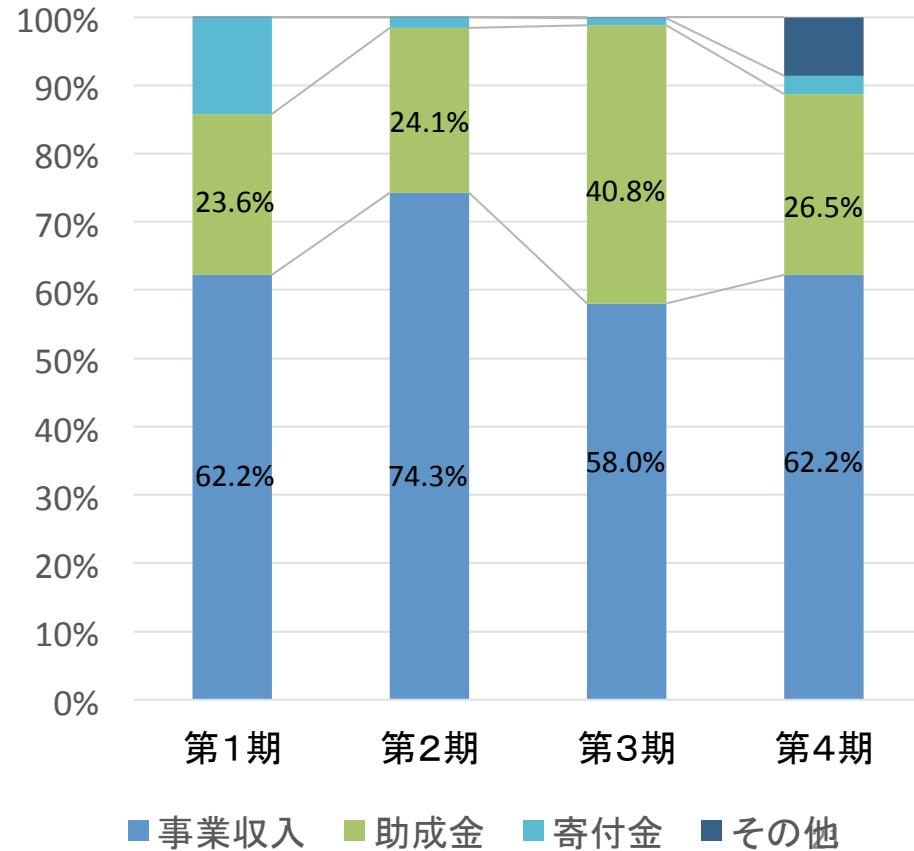
その他

第3期の3月に登米市にてデイサービス開設し、第4期はさらに事業収益が向上。  
収益構造は、第3期と比較し全体に占める事業収入率が4.2%向上し助成金率が14.3%減少した。

## 収支の推移



## 収益構造の推移



## 研修・メディア・雑誌での紹介

### ＜研修・講演など＞7件

- ・10/2 二枚目の名刺/SCSK Social Session～東北の社会起業家と挑む、新しい社会を創るプロジェクトとは～
  - ・2/27 ローカルイノベーション戦略会議 NPO法人ETIC.
  - ・3/8 みちのく復興事業シンポジウム みちのく復興事業パートナーズ
  - ・4/21 SCSK Sosial Session—きずなからアクションへー
  - ・7/19 社会起業家100人インタビュー ソーシャルビジネス推進協議会
  - ・9/17 ひろさきナラティブ 仕事と介護の両立支援セミナー
  - ・9/18 ひろさきナラティブ 市民公開講座 「住み慣れた地域で最後まで」

〈メディア〉9件

- ・2016.1.6 石巻かほく メディア猫の目 復興支援に貢献する人たち 質の高いリハビリ援助に力
  - ・2016.2.16 河北新報 介護離職防止対策を学んで
  - ・2016.3.3 日経新聞東北版 大震災から5年 仮設に元気、ふれあいを
  - ・2016.3.14 石巻日日新聞 体と心の機能回復支援
  - ・2016.4.29 石巻かほく メディア猫の目 体操で地域の健康促進 カラダづくりセンター活躍
  - ・2016.6.14 石巻日日新聞 おたからセンター講座修了生で団体設立
  - ・2016.6.18 石巻かほく メディア猫の目 健康づくりをお手伝い 講座修了生ら、サポート団体設立
  - ・2016.9.9 石巻日日新聞 誰もが健康的に暮らせる社会を目指して
  - ・2016.9.25 KAIGO LAB 要介護からの卒業を（本気で）目指す！一般社団法人りぶらすの取り組み

<雑誌> 3件

- ・2015.11 日本政策金融公庫
  - ・2016.6 介護ビジョン
  - ・2016.7 信用金庫

住民、健康守る担い手に

2016.3.3 日経新聞東北版

【つくりをお手伝い】福岡県生きる・サポート団体設立 石巻

5市で市民の健康づくりを支援する一般社団法人「りふらす」が育成する「おたがいカラダづくりサポート」のボランティア団体が発足した。本名は、「おたからのわ『頃』」。地域で体操教室を開催し介護予防や健健促進につなげる活動を展開する。



「おたからわ『點』」の歴史記述部分に読み、豊富な人間性に対する理解が得られる。

市立高瀬の包括ケアセンターで9  
始の日も朝食が無料だ。市営した

2016.6.18 石巻かほく

## 介護・障がい福祉事業（スタジオプラス石巻・登米）

- ✓ 石巻：効果測定、社会的インパクト調査（SROI）の実施
- ✓ 登米：障がい福祉サービスの開始。おたからサポーターの育成開始

## コミュニティヘルス事業

- ✓ 地域への応用：「おたからサポーター養成講座」を必要とする地域と連携
- ✓ 改善と啓発：研究成果をもとに「講座の改善」と、学会発表を行う

## 仕事と介護の両立支援事業

- ✓ 東北6県でのサービス提供
- ✓ 介護を担う家族を支えるサービスの開発

## 法人管理部門

- ✓ 組織強化・人材育成
- ✓ 事業収益率の向上



## 代表理事：橋本大吾

茨城県出身、理学療法士。36才。

東日本大震災後、茨城県鹿嶋市にある自宅が被災。震災発生年の5月に被災地支援ボランティア活動をはじめ、7月に石巻入り。同年12月に石巻市に移住し沿岸被災地を中心に活動を継続しながら、平成25年1月に3名の立ち上げメンバーと共にりپラすを創業。平成26年に結婚、翌年に長女が誕生。現在石巻市で3人暮らし。「わたし（家族）」と「仕事」と「社会」の関係性を意識しながら、日々の暮らしでいる。「地域包括ケア」「地域リハビリテーション」「ソーシャルビジネス」「仕事と介護の両立」などをテーマに全国各地で講演・研修を実施。八千代リハビリテーション学院理学療法学科卒業。



## 副代表理事：中山奈保子

平成10年作業療法士免許取得後、宮城県・福島県内の病院および施設、作業療法士養成校の専任教員等を歴任。東日本大震災で被災したことを期に災害を乗り越える親子の暮らしを記録・発信する団体「三陸こざかなネット」を発足。以降、二児の母・作業療法士として「病気や障害、災害に負けない心と身体を」をテーマに執筆・講演活動などを行っている。

国立仙台病院附属リハビリテーション学院作業療法学科卒業。



## 理事：藤島敬太郎

(株)リクルートマネジメントソリューションズ執行役員 ソリューション統括部長 / (一社)WIT 人材開発・組織開発・組織変革支援を事業とする同社にて「個と組織を生かす」をビジョンに、研究開発・コンサルティング・事業開発の統括責任者として従事。これまで、コンサルタントとして、大手商社・メーカー・デベロッパーなどでの実績。また、グローバル人材マネジメント、次世代リーダー育成、バリュー浸透などの新ソリューションサービスの企画開発を担当。将来の世代・子供達のための社会づくりに貢献すべくWITでも活動中。  
早稲田大学政治経済学部経済学科卒業。

## 法人概要

名称：一般社団法人 り puls

設立：平成25年1月11日

代表：橋本大吾（はしもと・だいご）

従業員数：12名

所在地

宮城県石巻市相野谷字今泉前29-3

## 協力企業・団体

認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム様

花王株式会社様 一般社団法人WIT様

NPO法人ETIC.様 一般社団法人MAKOTO様

SCSK株式会社様 NPO法人2枚目の名刺様

石巻専修大学様 東北福祉大学様

音流語源の家様（ほか）

## 沿革

平成25年1月：法人設立

平成25年5月：スタジオ puls 石巻開設

平成25年11月：障がい福祉サービス開始

平成26年8月：おたからサポーター養成講座開始

平成27年3月：スタジオ puls 登米開設

平成28年4月：仕事と介護の両立支援事業開始

8月：スタジオ puls 登米障害福祉サービス開始

## 従業員（保有資格）

理学療法士3名

社会福祉士2名

看護師2名

社会福祉主事1名

介護職員初任者研修修了者1名

（12名：H28年11月現在）

作業療法士2名

介護福祉士3名

保育士1名